

2021年6月22日

宮古島市長  
座喜味 一幸殿

群星沖縄臨床研修センター長 徳田 安春  
The Informed-Public Project 代表 河村 雅美

### 宮古島市新型コロナウイルス政策検証と提言について

日々の新型コロナウイルス感染症対策の取組みについて、感謝申し上げます。

私たちは、新型コロナウイルス感染症対策の政策検証や政策提言を行ってきました。その立場から市長にこの手紙を書いています。

この度、宮古毎日新聞の報道（「限定的実施で検討/全市民 PCR 検査」2021年3月25日）により、宮古島市の全市民検査実施計画が、準備段階の専門家の助言により、断念に至ったことを知りました。

宮古島市長が、積極的な感染対策を講じようとした取組みに、私たちは心から敬意を表します。

私たちは、計画断念に至る過程、特に専門家の助言が適切な科学的知見をもってなされたのかどうかを、宮古島市に情報開示請求をし、検証しました。その結果が『科学』（2021年7月号、岩波書店）に論文『宮古島市におけるスクリーニング PCR の疫学的推定』に対する検証』として掲載されましたので、ご報告いたします。

検証の結果、助言に用いられた「宮古島市におけるスクリーニング PCR の疫学的推定」は誤った根拠と推定に基づいていることがわかりました。

理由は以下のとおりです。

#### 1) 推定の根拠について:

- ・ 感染性を測定する場合の検査の感度に対して診断目的の検査感度を誤用していた。
- ・ 推定の根拠で用いられている論文に適切でない論文が含まれている（診断目的の検査としての感度を報告とした論文を用いており、今回の助言で必要な防疫目的の社会的スクリーニング検査の論文ではない。また、当該論文における疑陰性率のデ

ータは科学コミュニティからも批判されている)

- ・推定に用いる数値において偽陽性はないと仮定して推定結果を示すとされているが、この疫学的推定の表を見ると偽陽性はあるとされており、誤った結果が示されていた。
- ・リアルタイム定量 RT-PCR 検査は、まれなヒューマンエラーによる検体の交差汚染がなければ偽陽性は起こらないので、基本的に偽陽性はない。回復期陽性についてはサイクル閾値を評価することによって見分けることができる。

(2) 推定結果について：

- ・感染性がある人々の陽性者の数が低くなり、陰性数が高くなるという誤った結果を示されていた。
- ・偽陽性はあるとされており、誤った結果が示されていた。
- ・結論として「宮古島市におけるスクリーニング PCR の疫学的推定」は誤った根拠と推定に基づいているといえる。

このような PCR 検査の特異度等に関する誤った議論が存在するのは、国際的にみても日本のみです。この誤った説が拡散されたゆえに、日本は封じ込めに失敗しました。

また、検査を拡充すると医療崩壊するという認識は誤っており、医療者をミスリードしました。実際、政府の全国モニタリング検査結果を集計すると、陽性率は 0.13% (95%信頼区間 0.097-0.16%) でした。例えば、10,000 人を対象に行うと約 13 人の陽性者となります。偽陽性はゼロでした。スクリーニング検査は基本的に無症状者対象ですので、この 13 人を宿泊療養所保護隔離すればよいのであり、医療崩壊も起こさないこととなります。この地域重点検査を感染者数が低下した時期に実施すれば感染を封じ込めることが可能です。逆にこれを実施しなければ、この感染者 13 人から感染が拡大して医療崩壊が起きる可能性があります。

詳しくは添付文書をご参照ください。

上記の根拠により、残念ながら、宮古島市長には、適切でない科学的知見が提供されたことになりました。市長の計画した取組みが実現されなかったことは、大変残念なことと思います。

このようなことが再発しないように、私たちは、専門家への助言を諮問形式でオープンに実施するなど、第三者の目も入る透明性のあるシステム下で、政策決定への情報提供、助言がなされるようにすることを提言いたします。

宿主感受性対策（ワクチン接種）は現時点において、重要な感染対策ですが、新たな変異株の登場なども考慮し、感染源対策（早期検査発見および早期保護隔離）も力をいれ、検査拡充可能な体制を進めておくことを強く推奨します。

実現されなくとも、宮古島市の試みは、私たちにとって貴重な経験となりました。新型コロナウイルスは、未知の部分が多いパンデミックであり、国際的な知見を結集し、蓄積された経験を共有していくことが必要です。私たちも、この試みから得た学びを共有し、今後の沖縄県の新型コロナ政策のために活かせるようにしていきたいと思えます。

添付文書：

- 1) 論文『『宮古島市におけるスクリーニング PCR の疫学的推定』に対する検証』  
『科学』（2021年7月号、岩波書店）。
- 2) 【解説】新型コロナウイルス感染源対策としての無症状者スクリーニング検査について  
（ゼロコロナプロジェクト -Zero COVID Japan- による提言「COVID-19 無症状感染者の戦略的スクリーニングによる感染源の削減」～地域から感染源を減少させることにより人と人との間の接触を可能な限り維持しつつ感染者の増加を食い止めるための戦略～」ダイジェスト）
- 3) 情報開示文書該当部分

写し送付先：

- ・ 沖縄県知事 玉城康裕
- ・ 沖縄県立中部病院長 玉城和光
- ・ 国立感染研究所長 脇田隆字

この件に関する連絡先:

- ・ 論文内容について  
群星沖縄臨床研修センター長 徳田 安春: [yasuharu.tokuda@gmail.com](mailto:yasuharu.tokuda@gmail.com)
- ・ 情報開示請求について  
The Informed-Public Project 代表 河村 雅美: [director@ipp.okinawa](mailto:director@ipp.okinawa)